

第146回 日商簿記検定試験 2級 一商業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保证するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

- クレジット払いの条件で販売し、クレジット手数料が販売時に判明する場合には、販売時に支払手数料を計上する。
- 研究開発に従事している従業員の給料は研究開発費となる。なお、特定の研究開発にのみ使用する目的で固定資産を購入した場合にも、研究開発費として計上する。
- 国庫補助金は受取時に収益に計上され、法人税等が課税されることにより、備品の取得が阻害されてしまうことを防ぐ（課税の繰延）ために、国庫補助金と同額を固定資産圧縮損に計上する。なお、直接減額方式により圧縮記帳の処理を行う場合、備品から圧縮額を減額する。
- 株式の発行を行った場合には、払込金額を資本金等に計上する。なお、問題の指示より払込金額の8割を資本金に計上し、残額は資本準備金に計上する。
- 消費税は、預かった金額（仮受消費税）から支払った金額（仮払消費税）を控除した残額が納付すべき消費税の未払額（未払消費税）となる。

第2問

- 現金
  - 現金の定義  
現金とは、即時支払手段となりうる通貨及び通貨代用証券をいう。
  - 通貨代用証券の定義  
金融機関等でいつでも通貨に交換できるものをいう。例えば、他人振出しの小切手、配当金領収書、期限の到来した公社債の利札、送金小切手等が該当する。
  - その他の項目
    - 収入印紙は「租税公課」に該当する。
    - 郵便切手は「通信費」に該当する。
- 貸借対照表に計上される現金  
 $\text{¥121,200 (通貨)} + \text{¥16,000 (他人振出しの小切手)} + \text{¥7,500 (配当金領収書)} + \text{¥10,000 (送金小切手)} = \text{¥154,700}$

2. 当座預金

- 未取付小切手
  - 修正仕訳  
未取付小切手は、企業側は小切手の振出時に当座預金を減少しているが、銀行側は仕入先が小切手を呈示していないため、当座残高から引き落とされていない。よって、銀行側に原因があるため、修正仕訳は不要である。

(借) 仕 訳 な し	(貸)
-------------	-----

- 銀行勘定調整表  
企業側のみ当座預金を減少させているため、減算項目となる。
- 他人振出の小切手
  - 修正仕訳  
他人振出小切手は通貨代表証券であるため、現金に該当するが、企業側は小切手の受取時に当座預金に計上している。よって、企業側に原因があるため、修正仕訳を行う。

(借) 現 金	23,000	(貸) 当 座 預 金	23,000
---------	--------	-------------	--------

- 銀行勘定調整表  
企業側のみ受取時に当座預金に計上しているため、加算項目となる。
- 未処理
  - 修正仕訳  
取引の記帳を行っていないため、当然記帳する必要がある。よって、企業側に原因があるため、修正仕訳を行う。

(借) 当 座 預 金	23,000	(貸) 電 子 記 録 債 権	23,000
-------------	--------	-----------------	--------

- 銀行勘定調整表  
銀行側のみ当座預金が増加しているため、減算項目となる。
- 時間外預入
  - 修正仕訳  
時間外預入は、企業側は預入時に当座預金を増加しているが、銀行側は翌営業日に入金処理を行うため、当座残高は増加していない。よって、銀行側に原因があるため、修正仕訳は不要である。

(借) 仕 訳 な し	(貸)
-------------	-----

- 銀行勘定調整表  
企業側のみ当座預金が増加しているため、加算項目となる。
- 貸借対照表に計上される当座預金
  - 企業側残高を基準とする場合
    - 企業側残高： $\text{¥328,200 (銀行側残高)} - \text{¥32,000 (上記(1)②)} + \text{¥16,000 (上記(2)②)} - \text{¥23,000 (上記(3)②)} + \text{¥44,500 (上記(4)②)} = \text{¥333,700}$
    - 当座預金： $\text{¥333,700千円} - \text{¥16,000 (上記(2)②)} + \text{¥23,000 (上記(3)②)} = \text{¥340,700}$
  - 銀行側残高を基準とする場合： $\text{¥328,200 (銀行側残高)} - \text{¥32,000 (上記(1)②)} + \text{¥44,500 (上記(4)②)} = \text{¥340,700}$

第3問

- 未処理事項
  - 売掛金の回収不能  

(借) 貸 倒 損 失	30,000	(貸) 売 掛 金	30,000
-------------	--------	-----------	--------
  - 増改築工事  

(借) 修 繕 費	40,000	(貸) 建 設 仮 勘 定	160,000
(借) 建 物	120,000		

(注) 建物： $\text{¥160,000 (建設仮勘定)} - \text{¥40,000 (修繕費)} = \text{¥120,000}$
  - 自動引き落し  

(借) 水 道 光 熱 費	3,000	(貸) 当 座 預 金	3,000
---------------	-------	-------------	-------
  - 退職金の支払  

(借) 退 職 給 付 引 当 金	30,000	(貸) 仮 払 金	30,000
-------------------	--------	-----------	--------

2. 決算整理事項

(1) 売上原価の算定

(借) 売上原価	308,000	(貸) 繰越商品	308,000
(借) 売上原価	2,070,000	(貸) 仕入	2,070,000
(借) 繰越商品	272,200	(貸) 売上原価	272,200
(借) 棚卸減耗損	13,200	(貸) 繰越商品	13,200
(借) 商品評価損	9,500	(貸) 繰越商品	9,500

(注1) 期末商品

- ① A商品：200個（帳簿棚卸数量）×@¥500（原価）＝¥100,000
- ② B商品：420個（帳簿棚卸数量）×@¥410（原価）＝¥172,200
- ③ ¥100,000（上記①）＋¥172,200（上記②）＝¥272,200

(注2) 商品評価損

- ① A商品：{ @¥500（原価）－@¥450（正味売却価額） } × 190個（実地棚卸数量）＝¥9,500
- ② B商品：@¥410（原価）－@¥610（正味売却価額）＝△→0（商品評価益は計上しない）

(注3) 棚卸減耗損

- ① A商品：{ 200個（帳簿棚卸数量）－190個（実地棚卸数量） } × @¥500（原価）＝¥5,000
- ② B商品：{ 420個（帳簿棚卸数量）－400個（実地棚卸数量） } × @¥410（原価）＝¥8,200
- ③ ¥5,000（上記①）＋¥8,200（上記②）＝¥13,200

(2) 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入	260	(貸) 貸倒引当金	260
-------------	-----	-----------	-----

(注) { ¥106,000（試算表受取手形）＋¥200,000（試算表売掛金）－¥30,000（回収不能、上記1.(1) } × 1%－¥2,500（試算表貸倒引当金）＝¥260

(3) 減価償却

① 建物

(借) 減価償却費	28,000	(貸) 建物減価償却累計額	28,000
-----------	--------	---------------	--------

(注) 減価償却費

- i 増改築工事を行った建物  
¥120,000（上記1.(2)）÷ { 30年（耐用年数）－10年（経過年数） } × 6か月/12か月＝¥3,000
- ii その他の建物  
¥750,000（試算表建物）÷ 30年＝¥25,000
- iii ¥3,000（上記i）＋¥25,000（上記ii）＝¥28,000

② 備品

(借) 減価償却費	67,840	(貸) 備品減価償却累計額	67,840
-----------	--------	---------------	--------

(注) { ¥530,000（試算表備品）－¥190,800（試算表備品減価償却累計額） } × 20%（償却率）＝67,840  
千円

③ 減価償却費合計：¥28,000（建物減価償却費、上記①）＋¥67,840（備品減価償却費、上記②）＝¥95,840

(4) 満期保有目的債券（償却原価法）

(借) 投資有価証券	1,000	(貸) 有価証券利息	1,000
------------	-------	------------	-------

(注) { ¥600,000（額面金額）－¥595,000（試算表満期保有目的債券） } ÷ 5年（平成28年4月（当期首）～平成33年6月）＝1,000千円

(5) 買掛金の換算替え

(借) 為替差損益	1,000	(貸) 買掛金	1,000
-----------	-------	---------	-------

(注) 200ドル×¥115（決算時の為替相場）－¥22,000（仕入時計上額）＝1,000千円

(6) 退職給付費用の計上

(借) 退職給付費用	50,000	(貸) 退職給付引当金	50,000
------------	--------	-------------	--------

(注) ¥200,000（期末時点計上額）－{ ¥180,000（試算表退職給付引当金）－¥30,000（退職金の支払、上記1.(4) }＝¥50,000

(7) 保険料の繰延

(借) 前払保険料	8,000	(貸) 保険料	8,000
-----------	-------	---------	-------

(注) ¥12,000×8か月（平成29年4月～11月）/12か月＝¥8,000